

田園都市構想の理念

NHK「総理にきく」(合意の政治と決断)における発言の一部

対談者 高坂 正 堯氏

司会 緒方 彰氏

昭和五十四年一月二十二日

田園都市構想というのは、一つの新しい政策じゃないんです。まずお断りしておきますけれども、今度田園都市構想政策というものを大平が提言しているというのは、そんなものじゃないのでして、私の言うのは、いまあるいろいろな政策、教育政策もありますね、福祉政策もあるし、公共事業政策、農山漁村の対策もある。いろいろな対策を現にやっておりますね、中央、地方は。いろいろなことをやっておりますけれども、それが、ただ単に、場あたりで人口が都市に集中したとか、それが大都市であれ、中都市であれ、どうしても急場に間に合わさなければなりませんから、ここに学校も造らにゃいかん、公園も造らにゃいかん、道路も造らにゃいかん、ここに、交通体系も考え直さなきゃいかんというように、その後追いであったのですね。後追いであったけれども、そしてそれはある意味でやむをえなかったのですね。明治百年の間の近代化の経過から見ると、もうそういうことが、ある意味で不可避だったのですけれども、このところ、ようやく一応近代化の目標である西洋に追いつくというような目標も達してまいりましたし、都市化といいますが、もうだいたい止まりました、緩慢ながらUターン現象が起こってきた。

それから、そういう過程の中で東京というが、東京に中枢神経がみな集まってしまふ。全国みな手足になつてしまふというような、釣り合いのとれない状況が出てきたということだ、いままでいろんなことをやってきたけれども、これを大都市も中都市も小都市も全部ひつくるめて、日本全体が自然と人間、都市と農村がうまく組み合わせができて、都市の持ついろいろな文化機能、情報機能、そういったものが田舎の自然や人間関係とうまく組み合わせができるようなことを、日本はもういっぺん考え直すという時期がきたのではなからうか。

それだから私の言う田園都市構想というのは、一つの北斗七星みたいなものでして、それを置いといて、そして、現にやっておるいろんな政策を、北斗七星の方向に、だんだんとそのように世の中を持っていくには、この組み合わせ、この配列でいいのかどうか、もっとここに重点を置かなければいかんじゃないかというようなことを、ちょうど鏡を見て人間のネクタイがどうのこうのと考えるように、一つの政策の道標というかね、そういうものなんです、私の言おうとするのは、別に国土開発構想というような、そんなものじゃないんです。そういうものでなくて理念的なものです。